

話<sup>わ</sup>つ<sup>っ</sup>花<sup>か</sup>  
(八)

鳥井まみ

ノーベル賞がおあずけ

ボブ、デイランさん  
あなたにノーベル賞を：  
ところが発表あとのコンサートで彼は  
「サンキュー」の一言もなく  
そのことに触れずじまい  
なんか？なぜ？  
四ヶ月後の春になつて  
彼の手元に届けられたが  
べつに戴いてもいいじゃない  
偽証罪に問われることもないし  
それに百万円よりずっと重たい  
もらつたと記載しても何の罪にもなりません  
むしろこれを機に

作詞小学校を創立されても  
いいかなアー  
「風に吹かれて」が大ヒット  
「どれだけ人が亡くなれば」  
その多すぎた死に気づくの」  
反戦の歌声で  
世界中にファンに語りかけ  
「友よ その答えは風に吹かれている」  
エエッ 抽象的やなー  
もつと簡単にいえば  
ためらっていたら賞が風に吹かれて  
いつてしまつて  
やつと両手で  
大切なものを戴くのに  
その前後を考えすぎかもしれない



## クール シンデレラ

お色気が有りそうで 無さそうで

上流社会で泳ぐには

まったく色香がないのも

また 有り過ぎるのも

グレース、ケリーが女優のころ

モンローのように

「脱ぎたくないワ」

「なりたくないワ」

だが

似通った点もございませんでしたか

ホタルとなつたご兩人

天空から地上を見下ろす役まわりに

なつたこともですが：

王妃になる直前に撮影した

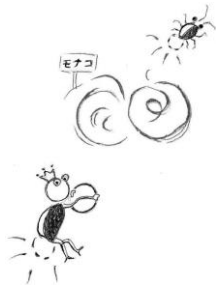
映画「上流社会」

水着姿は清楚にクール ビューティに

モンローのようなフレアー型で

風で舞い上がる様なのはいやです

そうだったのに  
彼女は上流街道をトンカラリンと  
おぼれもせず  
流されもせず  
車もろとも舞い上がり：  
崖をころげましたとさ  
輝き続けるモナコの不夜城で  
シンデレラの片方の  
靴もビツクリ！



## 敦煌のまれなこと

砂漠を歩くツアーになら

押しかける観光客

敦煌は砂漠の真ん中であつて

緑のオアシスがちょこんと

後は砂山

三か月型の泉は

「いくら強風がふいても

砂で泉が埋まることはありません」

うたい文句です

埋まらないのはなぜ？

ラクダがぞろぞろ

「乗ってみませんか」

と、ラクダが屈んで

乗ったあとガクンガクンと

二段階に立ち上がってくれて

降りるときも

背丈を見定めて降ろしてくれる

「またネー」



「またぐってヤー」  
背中に乗せたことかしら？  
遊牧民らが争奪戦をへて  
漢民族が得たものに  
「ブドウ」が育つ地帯だったから  
ブドウの壁画がバシュー窟に残っている  
ラクダは知っている  
緑いっぱいだっただのが  
ブドウ合戦の末に乾燥して  
「干しブドウにな  
なっ  
って  
い  
っ  
た  
ん  
だ  
よ」

## 蜜がありそう

「花そつくりさん」が  
潜んでいるとは知らず  
いつものように野生ラベンダーに  
立ち寄ったミツバチ  
ヒーローになるとき  
ミツバチの尻つぼの強力な毒針か  
カマキリのスツとだせる前足の力マカ  
「サー」舞台は花唇  
チュッチュツ甘いミツ  
そこにスツと力マカが  
あつという間にケリがついた  
「ミツバチは相手のオクラ入り」  
「武器を尻につけた方が負け！」  
花に化ける擬態の技をもち  
別の名は花カマキリと呼ばれるほど  
美しい花に化ける  
花カマキリにまんまと捕まった  
その早業にミツバチは

気がつくのがおそかった  
ギタイのメダル争いを年中  
やっているから  
その進化もあつて  
いつものように行き付けの  
花に立ち寄つて  
大丈夫だと思つても  
そこが戦闘地帯のミソ  
衝突とはちがう  
「そつくりさん」そつちの方に  
置きかわつてる  
だから：  
ポーと目がくもつたら  
よく確かめて





# かつてに出てきて

ワイワイ　　ガヤガヤ大合唱  
四月になると  
土から芽をだすタケノコ  
巣穴からはい出してくるアリにテントウ虫  
見つけられると  
さっそくイタズラされて  
手のひらに乗せられた  
トツ　トツ　指先まで歩くと  
「ずつと　上に！」  
テントウ虫は跳んだ  
それを見ていたタケノコは  
「遠慮なくて　いいなー」  
ボクら美味しく食べてもらって  
残ったタケノコだけが  
「上に伸ばせるんだ」  
竹の幼いときは早すぎで  
雨ふつて汗びっしょりかき  
伸びていく

年ごとに表と裏があり  
今年はようとしたって

「もう勘弁して

来年も芽をたくさんだすから」

そう宣言してゆつくりと休暇中に

テントウ虫とアリがやってきて

「踊らないか」

「そうや三人ならサンバだ！」

「テントウ虫のサンバ」で踊って

夏まで生き残った者どうし

謳歌して乾杯！

「未来は後まわしサ」

